

しんけん

JINKEN
第165号
(通巻 292号)
.....
2025年9月26日発行

INDEX

特集

第47回大分県人権・部落差別解消教育研究大会ならびに第10回大分県人権・部落差別解消保育研究集会
ヒューライツフォーラム2025 佐伯大会 2

県人教事業より 6
第2・3回オープン講座

県人教事業より 8
第4回オープン講座

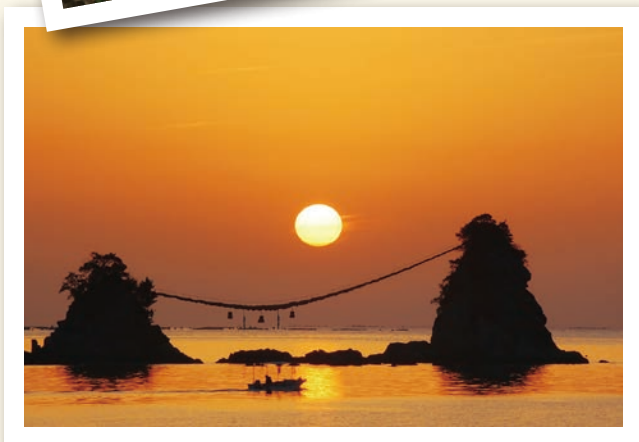
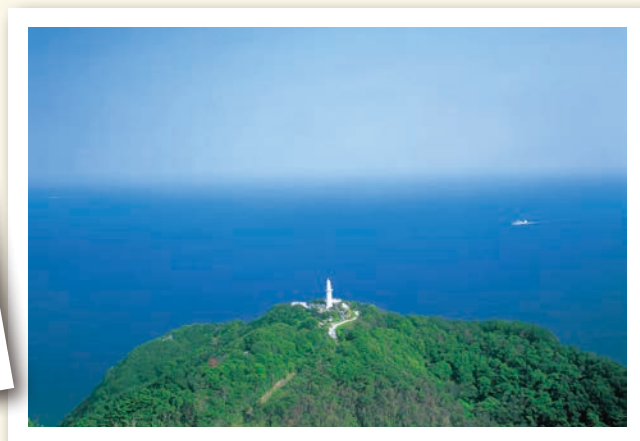
こどものまなざし 9
「言ってよかった。」 日出町 A・S さん

県人教専門委員より 10
進路保障の取組

～「全国統一応募用紙」今年の改定とその課題～
県人教専門委員 大分鶴崎高校 足立 正和 さん

HF 特集 12

ヒューライツフォーラム2025佐伯大会
～ヒューライツステージ～



公益社団法人

大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

大分県大分市大字下郡496-38 大分県教育会館内
TEL: 097-556-1012 FAX: 097-556-0864

URL <https://kjkoiita.jp/wordpress/>
E-mail hello@kjkoiita.jp



大分県人教の
ホームページは
こちら

印刷 小野高速印刷(株)

第47回大分県人権・部落差別解消教育研究大会ならびに 第10回大分県人権・部落差別解消保育研究集会 ヒューライツフォーラム2025佐伯大会 開催のご案内(最終案内)

公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会は、2004年以降県内に広く人権文化を根づかせていくため、各地からヒューライツフォーラムとして発信していくこととしました。佐伯市での開催は、2015年以來となります。ヒューライツフォーラムでは県内各地の学校や地域での人権確立をめざした実践について学び、一人ひとりが自らの実践を振り返る機会をもつことで、人権意識の向上や人権のまちづくりを進めています。

また、2016年に「フォーラム人権のまちづくり」が、2018年に「大分県人権・部落差別解消保育研究集会」がそれぞれヒューライツフォーラムに合併し、複数の大会・集会を統合して開催することになりました。このことにより、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けてより多くのなかまと共有していけるように、乳幼児期から社会教育に至るまでの進路保障の取り組みを通して、実践から学び合える場づくりを保障しています。

大会テーマ 差別の現実から深く学び、生活を高め、
未来を保障する教育を確立しよう

地元テーマ 「誰か」のことじゃなく、「わたし」のこと！
～部落問題をはじめとする様々な人権課題からみつめなおそう！自分自身を！～

と き 2025年10月31日(金)・11月1日(土)

と ころ (全 体 会) さいき城山桜ホール
佐伯市大手町2丁目2番28号
(中継会場) 弥生地域コミュニティセンター
佐伯市弥生大字上小倉1157番地2
(分 散 会) 佐伯市内小中学校 他



資 料 代 3,500円

大会日程

	9:00	12:00	12:50	13:45	14:15	16:15	
10月 31日 (金)	準備 リハーサル	受付	開 会 行 事	基 調 調	ヒ ュ ー ラ イ ツ フ ォ ー ラ ム	記念講演	前日 打合せ
							集計 片付け
							ヒューライツミュージアム
							※全体会では手話通訳を行います。
	9:00	9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	
11月 1日 (土)	準備	受付	分 散 会 実践報告	昼食 休憩	分 散 会 実践報告	片付け	

HFステージ

わたしたちの人権宣言（佐伯市内の子どもたち）

「自分を語ってみませんか。」と佐伯市に住む小学校6年生から高校生すべての子どもたちにちらしを配付したり、市報に載せたりした結果、「普段、思っていることを語り合いたい」「自分の人権感覚をもっと磨きたい」などとの思いをもって集まった9人の子どもたち。多くの人の生き様を知ったり、豊後大野市の解放子ども会や佐伯こどもミュージカル、仲町こども軽音楽部「Sun Rise」のみなさんと語り合ったりして作成した「人権宣言」を発信します。

開会行事(予定)

- 1 開会のことば 2 主催者あいさつ (県人教) 3 共催者あいさつ (佐伯市)
4 実行委員長あいさつ 5 来ひん代表あいさつ 6 来ひん紹介 7 基調提案 8 閉会のことば

ヒューライツミュージアム 地元の取り組みを展示

記念講演

【演目】 ネット人権侵害と部落差別の現実

～いま、人権・部落差別解消教育に問われていること～

【講師】 川口 泰司 さん (一般社団法人 山口県人権啓発センター事務局長)

1978年愛媛県宇和島市の被差別部落に生まれる。中学時代、同和教育に本気で取り組む教員との出会いから解放運動に取り組むようになる。大阪の大学を卒業後、(社)部落解放・人権研究所、(社)大分県新大分県人権協会を経て、2005年より山口県人権啓発センター事務局長として活躍中である。全国各地での講演会や出版、新聞やテレビ・ラジオなどのメディアでも部落問題について積極的に発信している。2023年NNNドキュメントで放送された川口さん主演のドキュメンタリー番組『いろめがね 一部落と差別』は「2023年日本民間放送連盟賞」、「2023年11月ギャラクシー賞」などを受賞した。



その他

(1)「駐車場」について

- 1 日め全体会は、地域ごとに指定した駐車場の駐車券を配付しています。車で参加される方は必ず駐車券を持って、指定された駐車場に駐車願います。高速道路出口、会場付近は大変混雑が予想されます。早めの移動へのご協力をお願いします。
- 2 日め分科会につきましては会場ごとに駐車場を準備しているため、駐車券は発券しません。

(2)「受付」について (事前申込)

- 大会 1 日めは、A 票 全体会/大会資料引換券を提出してください。
- 大会 2 日めは、B 票を提出してください。
- 両日とも、事前に参加券に必要事項を記入して、提出をお願いします。
- 当日参加の方は、当日参加専用の受付で手続きください。
- 車椅子利用の方の席を準備しております。受付でお声かけください。



(3)「夢見る小学校」上映実行委員会の企画

- 10月31日 (金) 17:30～「夢見る小学校」の上映 (さいき城山桜ホール)
上映後は、佐藤信昭さん (玖珠町立くす若草小中学校) 足利光保さん (佐伯市立本匠小学校)
ファシリテータ 曾我部尚人さんによるトークショーが予定されています。

◆主催 公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会

◆共催 佐伯市 佐伯市教育委員会 HF2025実行委員会

◆後援 朝日新聞大分総局 / 一般財団法人大分県教育会館 / 一般財団法人大分県私学協会 / 一般社団法人大分県身体障害者福祉協会 / NHK大分放送局 / 大分県 / 大分県教育委員会 / 大分県教職員組合 / 大分県高等学校教職員組合 / 大分県高等学校PTA連合会 / 大分県公立学校教頭会 / 大分県公立高等学校教職員組合 / 大分県国公立幼稚園・こども園会 / 大分県市長会 / 大分県市町村教育長協議会 / 大分県児童養護施設協議会 / 大分県小学校長会 / 大分県商工会議所連合会 / 大分県商工会連合会 / 大分県中学校長会 / 大分県町村会 / 大分県PTA連合会 / 大分県保育連合会 / 大分県立学校事務長会 / 大分県立学校長協会 / 大分県隣保館連絡協議会 / 大分工業高等専門学校 / 大分合同新聞社 / 大分県市町村教育委員会連合会 / OAB大分朝日放送 / OBS大分放送 / 学校法人平松学園大分短期大学 / 学校法人溝部学園別府溝部学園短期大学 / 株式会社エフエム大分 / 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 / 国立大学法人大分大学 / 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 / 社会福祉法人大分県聴覚障害者協会 / 社会福祉法人大分県盲人協会 / TOSテレビ大分 / 西日本新聞大分総局 / 日本文理大学 / 部落解放同盟大分県連合会 / 別府大学 / 毎日新聞社 / 読売新聞西部本社 / 立命館アジア太平洋大学

※五十音順に紹介 (全48団体後援予定)

HF2025佐伯大会 分科会分散会一覧表

分科会 区分	分散会 番号	報 告 者	報 告 内 容	会場施設
1 乳幼児期	1	由布（義務制） 佐藤 英明 挾間幼稚園	『つながる』～安心して自分を出せるなかまづくりのために～ 集団の中で自分の思いが出せないA児。「ありのままの自分」を出せるようになってほしいと願う教職員は、友だちとの関係づくり・園と家庭の連携が必要と考えた。様々な「つながり」を大切にしたい実践の報告。	佐伯小 ふれあい広場 ★上履き
		県人保 県人保推進委員	今さら聞けないことはない！～保育のモヤモヤを話しませんか～ 県人保より解放保育が大切にしてきたことから、現在こどもをまんやかに据えた人権保育への流れを紹介し、各地域での実践を交流しながら「今さら聞けない」と思わず、保育のモヤモヤを話していきたいと思います。	
2 教育の創造	2	玖珠（義務制） 宝阪 颯太 塚脇小学校	誰もが過ごしやすい学級づくりをめざして Aさんとの関わりの中で、対話することを通して、「児童の気持ちに寄り添うこと」「児童が主体的に活動できる場をつくること」の大切さを学んだ。この学びを「全ての児童が過ごしやすい学級づくり」にいかしていきたい。	和楽 大研修室
		中津（義務制） 外園 孝子 今津小学校	「みんながしあわせな学級」づくり ～そろわない前提で共に生きる～ どのような特性を持った子であろうと、どのような背景を持った子であろうとそこに優劣はない。「人権をベースにした学級経営」とはどうあるべきか。「荒れ」を示すA児と、A児を支えたクラスの中間の事例をもとに考える。	
	3	中津地区（高校） 関 麻海 中津南高校耶馬溪校	「先生の視界に入りたい」生徒が自分を大切にすることに向き合うまで 担任だったらできたが、副担任だからできない…ではなく、与えられた立場の中でできるかわかりをその都度懸命に考えて生徒に寄り添う営みが「教育の創造」には不可欠であることを気づかせてくれたAとの一年間の物語。	和楽 第1会議室
		竹田（義務制） 牛島 岬 直入小学校	つながりを大切に、主体的に学び合い、認め合う子どもの育成 小規模校の本校は固定化した人間関係の中で、困りや課題を抱えている子がいる。ひとりひとりの良さを生かし、お互いを認め合いながらつながりをつくり、友だちと学び合う喜びを感じてほしいと願い実践した。	
	4	豊後高田（義務制） 中山田 大介 戴星学園	「おれ、今まで相手が何か嫌なことを言っている気がしていただけないかもしれない。」 気持ちの行き違いから自分の感情をおさえられずに友だちに対して乱暴な言動をとってしまうAさん。そんなAさんと子どもたちの困りを受け止め、お互いに言動を振り返り、相手の気持ちを考えようとする姿が見られ始めた。	佐伯城南中 武道場 ★上履き
		日田（義務制） 小野 裕子 東部中学校	「木曽の小太郎（日田市人権教育共通教材）」の学習を通して 人権教材「木曽の小太郎」の学習の中で差別と向き合い、両親を説得するというロールプレイを設定した。両親役の教師とのやり取りを通して、生徒の心の変容が見られた。固定した人間関係の中でも伸び伸びと個性を発揮できるようになるために、どのような取り組みができるか、1年間の生徒の成長の報告。	
	5	大分地区（高校） 土谷 充章 爽風館高校定時制	「高等学校の通級による指導を通して、人とかかわりの成長をめざす」 本校の通級による指導「ライフスキルトレーニング」を通して、生徒一人一人が抱えている困りや苦手を理解し、克服しようとする様子についての実践を報告する。	弥生コミュニティ センター 視聴覚室
		豊後大野（義務制） 吉村 洋人 緒方中学校	自分の考えや思いをいきいきと表現する姿を求めて ～学習カードを活用した課題解決的な単元学習の創造～ 差別を自分の問題として捉え、解決に向けて行動ができることをめざして、「総合的な学習の時間」に位置付け自ら課題を持って調査し、他者とつながり、自分の考えや思いを持つように取り組んだ学習活動の実践報告。	
	6	宇佐（義務制） 伊井 優季 糸口小学校	「人とのつながりを大切にする学級づくりをめざして」 友だちとトラブルが起きがちなA。Aとの出会いをきっかけに、どのように子どもたちと関わり合い、子ども同士をつなげていけばよいかを考え、担任自身が自らの人権感覚を問い直す中で、子ども同士をつないでいった実践報告。	佐伯城南中 体育館 ★上履き
		速見（義務制） 江藤 立郎 川崎小学校	それぞれの思いを認める集団づくりをめざして 多様な思いをもった児童が集まっている教室。そんな教室の中で過ごしているAやその周りの児童の言動から、人間関係の実際が分かる。Aのきつさや困りを受け取ることができる集団づくりをめざして取り組んだ実践。	
3 自主活動・なかまづくり	7	別府（義務制） 武田 尚志 別府西中学校	Aさんとクラスの仲間たち 怒りの感情を抑えきらず、クラスメイトとトラブルになることが多いA。クラスや部活動、委員会での活動を通して、クラスメイトや保護者、教員との関わり方を学び、成長してきたAの姿を報告します。	佐伯市役所 大会議室
		豊肥地区（高校） 佐藤 美由紀 津久見高校	38名の個性豊かな生徒たちとの3年間 クラス全員と仲の良いお友だちになろうなんて思わなくて良い。しかし、個性を否定せずお互いを尊重しあえる「仲間」になることを目標に過ごした3年間の生徒の成長と担任として努力したことを報告します。	
	8	杵築（義務制） 岩丸 知弘 宗近中学校	互いを尊重し合える学級集団をめざして 生活のきまりを守ることができないAさんに対して、まわりの仲間も本人もそのことを良くも悪くも受け入れている。しかし、それは本当の意味で互いを尊重し合えている状態と言えるのか？教職員や仲間との対話や取り組みを通して、Aさんを含めた生徒全員にとって互いを尊重できる学級づくりをめざした実践。	弥生コミュニティ センター 研修室
		津久見（義務制） 武藤 祐太 津久見中学校	「ちがいを」受け入れることの大切さ 新たな人間関係が上手く作れないことから教室に入りづらかったA。「班ノート」を中心に、彼女が自分の想いを表現し、周りの生徒が彼女を受け入れ、互いの「ちがいを」認めるために、実践に取り組んできた報告。	
	9	大分（義務制） 渡邊 彩子 川添小学校	「もう1回謝る。本当にごめん。」 自分の思いを伝えることが苦手なれんさん（仮名）は友だちとのトラブルが多かった。れんさんの困りやきつさをどう受けとめ、信頼関係を築いていくかを、また安心して思いを伝え合うためにはどうすればよいかについて考え、取り組んだ実践報告。	弥生コミュニティ センター 大ホール
		佐伯（義務制） 赤峰 文子 下堅田小学校	「これならできるよ。やってみるよ。」～「わたしは、もう『ぬるい』って言われたくない!」～ 支援学級在籍の1年生のA。「困った子」のAを変えようとしていた教師。しかし、本当に変わらなければならないのは教師自身であり、Aに寄り添い始め、教師、周りの子どもたち、そしてAが変容していった実践。	

分科会 区分	分散会 番号	報 告 者	報 告 内 容	会場施設
4 進路・学力保障	10	くにさき（義務制） 伊賀上 友里 国見中学校	「個別の支援」をするということ 漢字の読み書きに困りを抱えているが、他の人と違うことが嫌で人一倍努力をして皆に合わせていた生徒に対し、本人の気持ちを大切にしたい効果的な個別の支援について考え、SC、SSW、専門機関と連携しながら実践した。	佐伯地区公民館 ホール
		宇高地区（高校） 竹内 満洋 高田高校	「生徒と寄り添う」ということ 「学校にいきたくない。」そんな言葉を生徒から聞いたとき、私たちに何がしてあげられるのでしょうか。少しでも生徒のそばに寄り添い、傾聴し、生徒の学力保障につながればと思い、今までのいくつかの体験談をまとめたいと思います。	
	11	臼杵（義務制） 濱田 寛慈 下北小学校	「先生……。」～Aさんとの関わりを通じて学んだこと～ 2年間Aさんの担任を任された。Aさんは以前から行き渋り傾向にあり、その後不登校となる。Aさんと関わった2年間の、学級の児童やAさんへの働きかけ、そのなかで気づいたことなどをまとめた。	佐伯地区公民館 大会議室
		久大地区（高校） 阿南 佑甫 日田支援学校	Aさんとの関わりを通して学んだ成功体験の大切さ 何でも物事を後ろ向きに考えてしまい、自己有用感の低い様子が目立つAさん。他者から認められる体験をたくさん積み、自信をつけて社会へ羽ばたいてほしいと願い、様々な指導・支援にあたった実践報告。	
	12	別府地区（高校） 吉良 和秀 別府支援学校	「今までと言っていることが違う。もう心配ないと言われても…」 ～新型コロナウイルスに翻弄された子どもたちへの進路保障とは～ かつて猛威を振るい、教育現場や子どもたちを翻弄した新型コロナウイルスも、今では忘れ去られようとしている。新型コロナウイルスが子どもたちに与えた影響や過酷さ、残された課題を進路保障の立場から捉えてみた。	佐伯市役所 第1委員会室
		県南地区（高校） 宮脇 正虎 佐伯支援学校	本校の就労決定までの具体的な取り組みについて ～自己内省を図りながら、将来をどう選び、どう決定していくか～ 就労に向けた希望が曖昧なA。自分の得意不得意を見分け、困っている思いが伝えられるよう、自己実現に向けたスモールステップ学習を行った。就労に必要な力を学び、希望する就労先へと決めることができた実践の報告。	
5 学習・啓発・まちづくり	13	玖珠町（社会教育） 立山 久美子 玖珠町教育委員会	「あたり前」を見直し、気付こう！つなごう！深めよう！～玖珠町人権公開講座の取り組み～ 26日目を迎えた玖珠町人権公開講座。受講者は町立学校に通う子どもの保護者を中心に、教職員も多い。講師の思い、受講生による捉えから学習を継続することの大切さを学ぶ。	佐伯小 体育館 ★上履き
		豊後大野市（社会教育） 後藤 修一郎 豊後大野市教育委員会	学びをつなぐ大切さを発信する ～豊後大野市社会教育課の取り組みを通して～ 人権課題を自分事として捉え、新たな学びに気づく市民を増やしたいと取り組みを進めています。その大人の学びを、子どもの学びや多くの市民を巻き込む活動につなげたいと思います。指導員のそんな取り組みの一端を報告します。	
		国速杵地区（高校） 清原 満 日出総合高校	企業と連携する人権教育 ～どんな人も活躍できる社会づくりの第一歩目として～ 日出総合高校の隣の敷地にある（株）ソーニー・太陽。高校生と社員さんが同じ道を通って登校・出勤している。学校のすぐ近く、でもどんな方々が、どんなふうに通っているのか、知ることから始めたい。そこから社会のありようを考えるきっかけにしたい。	
	14	佐伯市（社会教育） 清水 昌和 HF2025佐伯大会実行委員長	「わたしたちの人権宣言」～自分を語る・つながる、「人権のまちづくり」への参画へ～ 水平社宣言をもとに、子どもたちが自らの言葉で語り、発信する「人権宣言づくり」を行ってきた。HF実行委員会の構成団体が、連携し進めてきたこの取り組みを、今後の「人権のまちづくり」に向けた活動の契機としていきたい。	桜ホール 大ホール

☆会場利用について

- ・常時換気等を心がけていますので、温度の変化に対応できる服装でご来場ください。
- ・各施設には、主催者よりスリッパ等の貸出を取りやめていただいています。上履きをご持参ください。★上履きが必要な会場
- ・分散会会場の近くにお店が少ない場合もありますので、事前に昼食の準備をお願いします。会場での弁当の販売も行いません。



☆分散会会場について

- ・分散会会場間の移動は認めていません。事前に申し込まれた分科会での学びの場づくりにご協力ください。
- ・靴や傘等は、ビニール袋を準備しますので、各自で保持してご参加してください。
- ・子どもたちの学びの場や市民の集いの場を会場としてお借りしていますので、ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ・片付けにもご協力いただけますと幸いです。



【お問い合わせ先】

公益社団法人 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
《住所》〒870-0951 大分市下郡496-38 大分県教育会館2階
《電話》097-556-1012

第2・3回オープン講座

7月23日（水）に大分県教育会館多目的ホールにて、午前は第2回オープン講座、午後から第3回オープン講座を開催しました。第2回オープン講座は「こどもの人権を主体とした学校づくりのために」という演題で、木村泰子さん、徳田靖之さんにそれぞれお話をいただきました。

簡単ではありますが、講演について紹介します。

【木村泰子さん】

「不登校」の子どもの声から、みんなが無理しなくても来れる学校をつくっていききたい。

これまでの「指導」という名の下、一方的な教育は一瞬で「暴力」に変わっていく。

「指導」より多様な「環境」をつくっていくことが求められている。

「子どもが主語とどういうことか。」教員は、「おはよう」から「さようなら」まで背中で見せていきたい。

先生たち「熱心な無理解者」にならないでください！主語は自分ではないか…

自校が「子どもの権利」を大切にしたい学校づくりができているのか
校門をくぐっても人権が失われていないか…ふり返っていききたい。

【徳田靖之さん】

教育が「優性思想を植え付けられた教育」になっていないか。「かわいそう、助けなきゃ」という思いで見下し、「してあげる」という考えに「差別の現実」があるのではないか。そこを起点に「優性思想をどう超えていくか。」が課題となってくる。これまで関係性の中で学ぶということを大切にしてきた。ある友人に「何かしてあげなくちゃ」と思いで付き合ってきた過ちがあった。互いに学んでいくことをとおして対等になってきた。子どもとの関係も、教えるのではなく、問いかけるといった関係性が築ければ、変わっていくのではないか。具体的場面で過ちを繰り返しながら人権が身につくのではないかと考える。まだ自分の中にある過ちを知る。そして、「人間ってすばらしい。自分の実感として」

午後からの第3回オープン講座は、木村泰子さん、徳田靖之さんが午前に引き続き「こどもの人権を主体とした学校づくりのために」の演題で対談が行われました。

対談（一部紹介）

徳田さん→木村さん

「学ぶとは自分を変えること」子どもたちから教わる。徳田の言っていることは理想論ではないかと感じました。大空学校の実践が励みになりました。「すべての子どもたちに居場所を」が心に残りました。

木村さん

大人も居場所がありますか。自分を認めてほしい。外には見えていない、自分のまごごとをどんな評価を言われても、自分軸。自分の経験値を目の前の子にいかす。持っていない経験値で指導したがる。子どもの20年後の姿を描きながら、かかわっていききたい。

徳田さん

子どもたちは大人を見ている。

薬害エイズ問題にかかわり、担任「今日はエイズの話をしてします。」生徒「わたしの叔父はエイズです。」担任は話せなくなった。目の前にエイズ患者がいなかった授業な成り立たない。目の前にいないとする教育はない。



徳田さん

学校の教員の優先順位。1番は目の前の子どもが安心して学校に来ているか。

生きている分だけ変わっていく自分を見せたい。

保護者、教員の見方はどうか。

あいつは「障害」がある。「障害」という言葉、不便だけど、不幸ではない



Q 戦後80年今を生きるわたしたちが大切にしていきたいこと

徳田さん

人のせいにせず、学び続ける

2度と戦争をしない。平和、自分らしく生きる、憲法9条を守る

木村さん

先生の気遣いは子どもの本音を削る

地域住民は土、教職員は風、文句を意見に変えよう、地域の学校がパブリック

リユクを置くとひとりの人、学びを通して違いをリスペクトしていく

徳田さん

少数者は時代の変革者。多数に立っていると思うと腐敗が始まる

生き方として抗い続ける。そのことに誇りを持つ。未来を信じています。

以下、参加者の感想を紹介します。

「無理をしないでも来れる学校をつくるのが私たちの仕事である」という言葉に「ああ、そうなんだ」と思いました。私たちの学校にも、来れていない子どもたちがいます。学校が息苦しい場所になっているのだと思います。子どもたちとの関係性、子ども同士の関係性が対等でないのかもしれませんが、「差別はいけない」ことはわかっている。そのことを教えることは何も意味がない…このことはわかっているつもりでも、なかなかできていません。その場面に自分がいたらどうするか、子どもたちと学び合うことで深めていけるようにしたいと思いました。子どもと向き合うことを大切にまた一步一步進んでいきたいと思いました。「少数者は時代の変革者である」という言葉に勇気をもらいました。

“未来をつくるために学校がある”という言葉が心にひびきました。現在、非常に多忙ですが、その日々の中での子どものほんの少しの変化や子どもが発してくれた言葉などに喜びがあり、やっぱり子どもっていいな。先生の仕事っていいなと強く感じます。

～中略～

子どもの思いを大切にしながら、子どもと先生、子ども同士、そして、親ともつながりを深くし、一人ひとりの子どもが安心して過ごせる場を大切につくっていかねばと思いました。

自分の学校、子どもたちへの関わり方など、ふり返った時、“人のせいにしない、学び続ける姿勢”ということが分かっていても、行動にすることが難しい。だけど、信念をまげずに自分らしく生きたいと強く感じました。今、私の学校は子どもが落ち着かず、学力など結果のことで言われている現状に、モヤッとしたものが自分の心の中にありましたが、一番大切なことは子どもが安心して学校に来るために自分がに何ができるかをもう一度よく考えて2学期を迎えたいです。

1日どっぴり考えたという感想が寄せられていました。次年度もこの時期にオープン講座を企画します。年度初めの計画に入れていただき、多くの方が参加できればと考えております。

第4回オープン講座

8月22日（金）に大分県教育会館201研修室にて第4回オープン講座を開催しました。講師は、大阪公立大学 都市経営研究科 阿久澤麻理子さん。『変容する現代社会の部落差別』という演題でした。国際条約、国内の法律、他県の調査結果、裁判での判決など、根拠となるデータや資料から現代社会の部落差別の変容の話がありました。参加者の感想を一部紹介します。



差別する側の問題である。どこかでみんなわかっているけど差別がなくなる。子どもだけでなく大人も含めて、何らかの理由をつけて「そんなつもりはない」「関係ない」と他人ごとだからなくなるのだと思う。自分自身の問題として考えていく人が増えていくといいと思うし、学校のなかで自分事ととらえて考えることのできる子どもを増やしていきたい。そして、まずは自分自身がそうありたいと思っています。

“なぜ声を上げづらいのか”という点についてデータをもとに理解することができ、より一人ひとりに寄り添い考えていく自分自身になっていくことの大切さを実感しました。さらに、フロアからの質問の回答から、若い人たちへの“社会の中で私自身がともにあるんだ”という実感をわかせていくことを、これからの実践の中心に据えようというイメージできました。

差別は差別する人の問題であると私もそう考えます。また、私たち自身もまた社会のシステムの中に組み込まれていて、自分が差別する側にいる意識を持つことは余程考えなくては難しいと思いました。そのためにも違和感や他の人の声をさまざまな困りを述べる人の声を聞きとめていくことが大切だと思いました。社会についての視点を持つことも考えさせられました。

土地に対する忌避意識は、人にしみついた感覚に似ていると思う。そして、そのことを意識していない人が多い気がする。一人ひとりがほりさげて、その意識改革につなげる対話を続けていきたい。新しい講座の視点で学べてよかった。

「土地」に関することをどう教えるのか…学校の教諭が家を建てる時に…というニュースは知っていたが、“土地”に関する学習の重要性を深く考えさせられた今日でした。先生がおっしゃるように、小学校では歴史を中心にしながら、今につながる学習が多く、「土地」に関する授業をしていない現状があります。部落問題学習は、本当に多面的に見て、いろいろなはたらきかけや学習、授業をすすめていかなくてはいけないと思いました。





こどものまなざし

このコーナーでは、人権作文集「ひかり」に掲載された作品を紹介していきます。子どもたちが日常生活の中で考えたこと、感じたことなどにふれ、子どもたちの姿から学んでいきたいと思います。

言ってよかった。

わたしは、こわかったけど、勇気を出してはっきりと、
「わたし、リコーダーがしたい。」
と、言いました。

わたしは、リコーダーで色々な曲をえんそうするのが大好きです。音楽で習った以外の曲も、練習してえんそうできるようになりました。

そんなある日の休み時間のことです。わたしは、好きなリコーダーをえんそうしてすごそうと思っていたところ、友だちが、
「リコーダーをえんそうする以外で遊ぼう。」と、さそってきました。わたしは、リコーダーをしたかったけど、こわくて自分の気持ちをすなおに言えませんでした。それは、友だちにおこられたり、けんかになって一人ぼっちになったりするかもしれないからです。

次の日の休み時間も、また友だちから
「外で遊ぼう。」

と、言われました。わたしは、自分の気持ちを言うか、言わないで友だちに合わせるか、まよいました。でも、自分の気持ちにうそはつきたくないの、勇気を出して自分の気持ちを思い切って言いました。すると、友だちが、
「ごめんね。自分のやりたいことばかり言って。」

と、言ってくれました。わたしは、
「分かってくれたらいいよ。」

と、言いました。わたしは、心の中で、友だちは、自分の気持ちを受け入れてくれたと思いました。わたしは、とてもうれしかったです。

そして、友だちが、
「じゃあ、リコーダー教えてほしいな。」

と、言ってくれたので、いっしょに楽しく練習しました。

もし、わたしが、自分の気持ちをはっきり友だちに伝えなかったら、心がもやもやして、友だちにいつ言おうか、なやむと思います。そして、言いにくくなって、友だちのことがいやになってくるのではないかと思います。

わたしは、あの時、勇気を出して友だちに言ったことで、すっきりいい気持ちになりました。そして、友だちと、もっと仲よくなりました。

わたしは、これから相手の気持ちも自分の気持ちも大切にできる人になりたいです。自分と同じように、気持ちを伝えられず、もやもやしている人もいると思うので、そんな人の力になれるような人になりたいです。

人権作文集ひかり2025【第37集】

日出町小学校 三年 A・Sさんの作品

自分と相手の考えが違うとき、言いたくても言い出せないことがあります。それは、相手がどう思うかわからないがゆえに、自分が嫌な思いをするからかもしれません。作者のA・Sさんは、自分に正直に、勇気を出して自分の気持ちを伝えました。そのことで、友だちとはもっと仲良くなれました。

意見が違うと不安になることはあるでしょう。けれど、他者を信じ、伝えることは、他者より深い関係になることがあることを教えてくれる文章です。

進路保障の取組 ～「全国統一応募用紙」今年の改定とその課題～

県人教専門委員 大分鶴崎高校 足立 正和

日本国憲法（第22条）に「職業選択の自由」が規定され、1965（昭和40）年の「同和対策審議会」答申の中でも「就職の機会均等が完全に保障されていないことが特に重大である。」と指摘されつつも、実際には、受験者自身の能力や適性、関心、意欲とは関係のない事柄にもとづく差別的な選考が行われていました。そのうちの一つに、各事業所が独自に作成した就職採用選考書類（いわゆる社用紙、本人の思想信条、家族や経済状況等まで記載）の使用がありました。

1968（昭和43）年、奈良県の被差別地区出身の一人の高校生による就職時の差別選考の指摘をきっかけに、近畿の各県が就職差別撤廃を目指して協力し、1971（昭和46）年に「近畿高等学校統一用紙」（紹介書・履歴書・調査書）が制定されました。近畿地区から始まったこの取組は行政を動かし、1973（昭和48）年には当時の文部省、労働省、全国高等学校長協会の協議により「全国高等学校統一応募用紙」（履歴書及び調査書）が制定され、「社用紙」の廃止が通達されました。さらに1974（昭和49）年には、市販の履歴書の日本工業規格（JIS）規格化へと広がりました。

この取組は、被差別地区の子どもたちだけでなく、被差別の状況に置かれた子どもたち、さらには一人一人の就職希望者への「就職差別」をなくし、公正な選考をめざした進路保障の取組でした。しかし今からちょうど50年前の1975（昭和50）年には「部落地名総鑑」事件が発覚し、企業の根深い差別の実態が明らかになります。

「全国統一応募用紙」は1973年の制定後、人権をめぐる国内外の潮流の中で就職を希望する子どもたち、より公正な採用選考をめざして、1984（昭和59）年、1985（昭和60）年、1996（平成8）年、2005（平成17）年の4度内容の見直しが行われてきました。例えば、1984年の改定では「家族」欄が削除、「資格・特技」欄が「免許・資格等」に変更、1996年の改定では「履歴書・身上書」が「履歴書」に変更、調査書から「胸囲、色覚」が削除、2005年の改定では履歴書から「保護者氏名」欄が削除されるなどしてきました。

そして、文部科学省、厚生労働省、全国高等学校長協会による協議の結果、今年2025（令和7）年2月に5度目の改定がなされました。履歴書では①「性別」欄を削除、②「学歴・職歴」欄を「在籍校」欄と「職歴」欄に変更、③「趣味・特技」欄を削除、④「志望の動機」欄を「志望の動機・アピールポイント」欄に変更されました。また、調査書も「身体状況」欄の削除や「特記事項」欄の追加など、5つの項目で変更がありました。特に履歴書の性別欄は削除されましたが、調査書の性別欄は残ったままであることは、生徒にも周知し、とりわけセクシュアリティで悩む生徒の場合、本人・家族とどう対応するのがいいのかを事前面談で話しあうことも必要かもしれません。また、調査書の「特記事項」欄に書く内容を生徒にも知らせて、面接試験で対応できるようにすることも検討すべきと思います。

さらに、新規中学校卒業生用応募書類である「職業相談票（乙）」も、「特記事項」欄の追加、「現住所」欄へのふりがなの追加、「10 趣味・特技」・「11 身体状況」欄の削除、校長押印の不要など、7項目が変更になりました。これらの変更については、各省庁や労働・教育行政からの通達等で全国の企業や学校に周知が図られており、各ホームページで確認できます。また、様式はインターネットからダウンロードできます。

「進路・学力保障」は、「人権教育の総和」と言われます。目の前にいる一人一人の子どもたちの進路を保障していく学校現場での取組や公正な選考を願う私たちの思いは、これまでもそしてこれからも変わることはありません。生徒の「言わない・書かない」取組をサポートするために教職員は就職先企業への違反質問についての説明や「受験報告書」の取組を確かなものにしていきましょう。

○新たな統一応募用紙（履歴書）（案）

履 歴 書	
令和 年 月 日現在	
ふりがな	
氏 名	
生年月日	昭和・平成 年 月 日生（満 歳）
ふりがな	〒
現住所	
ふりがな	〒
連絡先	

写真をはる位置
(30×40mm)

「在籍校」欄と「職歴」欄に分離

在籍校		高等学校卒業見込み
令和 年 月		高等学校卒業
職 歴	平成 年 月	
	令和 年 月	
	平成 年 月	
	令和 年 月	
	平成 年 月	

(※の欄については、記入上の注意事項を確認すること) ← 記載内容の変更

罫線追記

(応募書類 その1)

取得年月		資格等の名称
年	月	
年	月	
年	月	
年	月	
年	月	

校内外の諸活動

追記

志望の動機・アビリティポイント等

追記

備考

全国高等学校統一用紙(文部科学省、厚生労働省、全国高等学校長協会の協議により令和〇年度改定)

○従来の統一応募用紙（履歴書）

履 歴 書	
令和 年 月 日現在	
ふりがな	
氏 名	
生年月日	昭和・平成 年 月 日生（満 歳）
ふりがな	〒
現住所	
ふりがな	〒
連絡先	

写真をはる位置
(30×40mm)

性別

「在籍校」欄と「職歴」欄に分離

学 歴 ・ 職 歴		高等学校入学
平成 年 月		
令和 年 月		
平成 年 月		
令和 年 月		
平成 年 月		
令和 年 月		
平成 年 月		
令和 年 月		

(連絡先欄は現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入すること)

「職歴」にはいっせいのアルバイトは含まない ← 記載内容の変更

(応募書類 その1)

取得年月		資格等の名称
削除		
年	月	
年	月	
年	月	
年	月	
年	月	

趣味・特技

校内外の諸活動

志望の動機

備考

全国高等学校統一用紙(文部科学省、厚生労働省、全国高等学校長協会の協議により平成17年度改定)

ヒューライツフォーラム2025佐伯大会 ～ヒューライツステージ～ 「わたしたちの人権宣言づくり」について

自分を語ってみませんか！

そして わたしたちの「人権宣言」をつくってみませんか！

10月31日(金)、11月1日(土)「ヒューライツフォーラム2025佐伯大会」

にて、佐伯市民、大分県民のみなさんへ発信しませんか。

▶ 佐伯市内の小学校6年生～高校生すべてに募集し、9名、参加した。

第1回「自分を語ろう」

言い出しっぺのシミーの語りを聞き、何でも話していいんだという雰囲気をつくった。



第2回「自分の思いを出し合おう」

豊後大野市の解放子ども会のみなさんと座談会をする中で、自分のきつさやつらさ、普段考えていること、おかしいと思っていること等語り合った。



第3回「語り合いキャンプ」

1泊2日のキャンプで、思いや願いをさらに深め合った。この活動に賛同した「仲町こども軽音楽部「Sun Rise」」「佐伯こどもミュージカル」のメンバーも参加し、語り合いながら、「人権宣言」(素案)が完成した。



第4回以降「わたしたちの人権宣言」 発信の計画・準備・練習

「人権宣言」を完成させ、発信の方法や役割分担を考え、練習を通して、自分たちの思いを固めていく。

「ヒューライツフォーラム
2025佐伯大会」で発信

◎10月31日(金) ヒューライツステージ
(13:45～14:15)

◎11月1日(土) 第14分散会 (10:00～12:00)

いずれも「さいき城山桜ホール」大ホール

*31日は弥生地域コミュニティセンターでも中継します。

ヒューライツミュージアムでも活動の様子や子どもたちの声等、展示します！

こちら
編集部

165号は、ヒューライツフォーラム2025佐伯大会の最終案内を収録しています。8月の事前学習会で、それぞれの分科会でレポートから学びのある議論となるよう討議課題を考えていきました。10月31日、11月1日は佐伯市でお待ちしております。
(りょ)